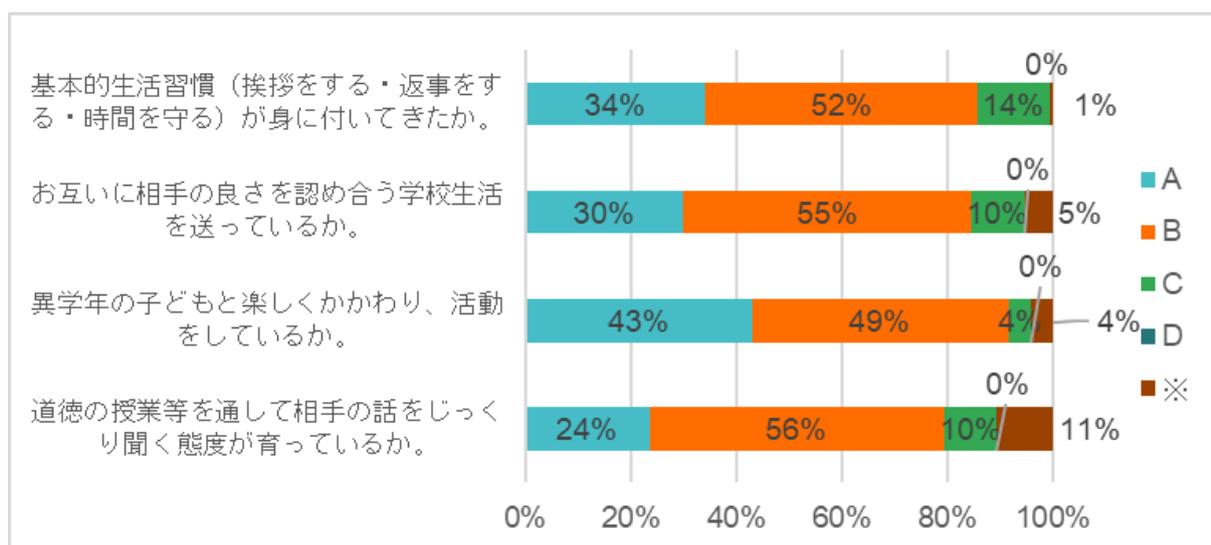


令和7年度 中央区立阪本小学校 自己評価報告書																												
学校名：中央区立阪本小学校		所在地：中央区日本橋兜町15-18																										
校長名：小川 優																												
児童数 222名	学級数 9	教員数 21名	職員数 48名																									
1 重点目標の達成状況及び取組状況																												
重点目標1 「自ら考え共に学ぶ子どもの育成」																												
＜評価項目＞ 学び合いや体験を重視した課題解決型学習、個に応じた指導、ICT・デジタルシチズンシップ教育の実施																												
重点目標2 「温かい人間関係を育む活動の推進」																												
＜評価項目＞ 縦割り活動を中心とした子どもたちの相互のかかわりや元気よい挨拶や返事																												
重点目標3 「地域の特色を生かした阪本ならではの教育活動を進める」																												
＜評価項目＞ 日本の伝統文化理解教育、金融教育・キャリア教育、オリンピック・パラリンピック教育の推進																												
【評価結果グラフ】 A：十分達成している B：達成している C：改善を要する D：緊急に改善を要する ※：よくわからない																												
＜重点目標1＞																												
<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>※</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>楽しく学校での学習を行っているか。</td> <td>44%</td> <td>49%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>タブレットパソコンを活用した学習に興味をもち、学習しているか。</td> <td>45%</td> <td>46%</td> <td>4%</td> <td>0%</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>自分から授業に興味をもち、友達と協力して学習に取り組んでいるか。</td> <td>32%</td> <td>56%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> <td>6%</td> </tr> </tbody> </table>					項目	A	B	C	D	※	楽しく学校での学習を行っているか。	44%	49%	5%	0%	2%	タブレットパソコンを活用した学習に興味をもち、学習しているか。	45%	46%	4%	0%	4%	自分から授業に興味をもち、友達と協力して学習に取り組んでいるか。	32%	56%	5%	0%	6%
項目	A	B	C	D	※																							
楽しく学校での学習を行っているか。	44%	49%	5%	0%	2%																							
タブレットパソコンを活用した学習に興味をもち、学習しているか。	45%	46%	4%	0%	4%																							
自分から授業に興味をもち、友達と協力して学習に取り組んでいるか。	32%	56%	5%	0%	6%																							
<p>「楽しく学校での学習を行っているか」では、A・Bを合わせた評価が93%（昨年度と同じ）であった。児童にとって楽しい学校生活を目指し、ここは100%にしたい。</p> <p>「タブレットパソコンを活用した学習に興味をもち、学習しているか」では、A・Bを合わせた評価が91%（昨年度は88%）だった。本校はこの8年間、ICT教育・プログラミング教育（令和2年～4年度まで）、デジタルシチズンシップ教育（令和5・6年度）を研究授業と日常的な学習用タブレット活用を中心に強力に推進し続けており、児童のICT機器の活用意欲は高い。一人一台学習用タブレットを効果的に活用し、児童の情報活用能力、判断力、思考力、表現力の向上を目指している。今後も、校内研究を通して、各教科で学習用タブレットを効果的、集中的に活用する場面をさらに整理し、一人一台の学習用タブレットを最大限に活用していきたい。その場面を学校公開等で積極的に見ていただき、学習用タブレ</p>																												

ットの活用の様子を学年だより等でも随時、保護者の皆様にお知らせしていきたいと考えている。

「自分から課題をもち、学習しているか」では、A・Bを合わせた評価が88%（昨年度は76%）で、12%改善した。児童が学習に意欲・関心をもち、自ら課題設定を行い、切実感をもって主体的に学習課題に取り組めるよう、「主体的で、対話的な深い学び」の実現を目指して、より一層導入教材の工夫と、意欲を持続させる単元構成の工夫の授業改善を図っていききたい。

<重点目標2>



「基本的な生活習慣（挨拶をする・返事をする）が身に付いてきたか」では、A・B評価が86%となった。（前年度は88%）。C評価が14%（前年度は11%）だった。阪本小の課題の一つだが、評価が少し下がった。しかしながら、学校での日常の挨拶の様子・実際はここ数年で最もよく、特に立ち止まって挨拶ができる子どもが増えている。

学校では、相手の目を見ること、自分から挨拶すること、立ち止まって挨拶することを生活指導上の重点と決め、年間を通して全教職員で指導してきた。今後も、挨拶の基本を大事にしなが、学校のお客様に対して、あるいは場面や状況に応じた挨拶ができるよう粘り強く指導を続けていきたい。挨拶の響き渡る阪本小学校を目指したい。

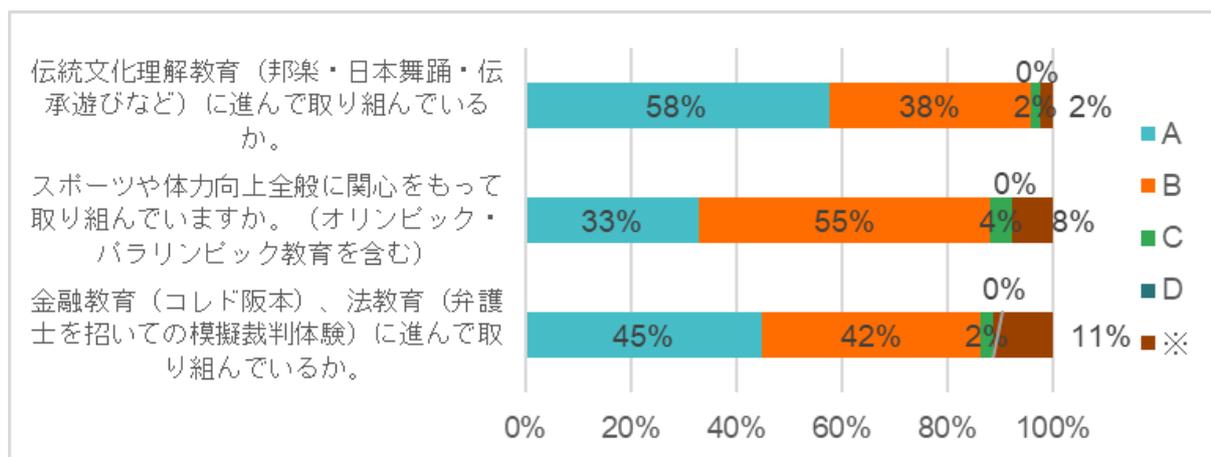
「お互いに認め合う学校生活を送っているか」では、A・B評価が85%（昨年度84%）で、C評価が10%ある。自分を大切にすることはもちろん、友達のよさに気づき、相手を尊重し大切にできる機会・場面を増やしていく。そして、お互いの存在を認め合い、大切にできる教育を引き続き行っていく。

「異学年の子どもと楽しくかかわり、活動しているか」ではA・B評価が92%（昨年度も

同じ) と高くなっている。新型コロナウイルス感染症も5類となり、従来の縦割り班清掃が再開され、児童の交流機会も増えた。今後は縦割り班の交流給食も再開していきたい。自他の良さを認め合い尊重し合うことは人権教育の基本であり、本校の児童に人を思う温かい心を育てることは重要な教育の目標である。児童の思いやりの心と友達との信頼感、協力の大切さを体験的に学び取れるよう、引き続き、お互いの良さを認め合う活動を増やし人権尊重教育、豊かな心の育成を進めていきたい。

「道徳の授業等を通して相手の話をじっくり聞く態度が育っているか」では、A・B評価が80%（昨年度79%）、C評価が10%、「わからない」が11%であった。道徳の授業を見ていただく機会が少なかったことも背景にあると思われる。道徳的心情は、毎週の道徳の授業、道徳授業地区公開講座はもちろん、全ての教育活動を通して育てていきたい。今後もより一層、「考え、議論する道徳」を目指し、問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れた授業展開を図り、児童に相手の話をよく聞く態度と思いやりの心を育てていきたい。なお、今年度の道徳地区公開講座は令和6年6月8日（土）に実施し、保護者の皆様にご参観いただいた。

< 重点目標 3 >



「伝統文化理解藍教室」（邦楽、伝統遊びなど）に進んで取り組んでいるか」では、A・B評価が96%と高く（A評価だけで58%）、昨年度からさらに改善が見られた。昨年11月30日（土）に伝統文化理解教室の学校公開を行い、保護者の皆様にご参観いただいた。

邦楽教育は、本校の特色ある教育の一つであり、非常に重要な教育活動である。今年度も従来の年間を通しての外部講師の招聘と邦楽教室が実施できた。学校公開・伝統文化理解教室実施直後の保護者アンケートでも、取り組みへの高い評価を多くいただくことができた。学校としては、活動のねらいや内容の質を落とすことなく改善を重ね、本校の伝統であり特色ある教育活動である邦楽教育（日本舞踊を含めて）に引き続き力を入れて取り組み続けたい。今後の児童数増加を踏まえて数年後の邦楽の表現方法についても検討している。

「スポーツや体力向上全般に関心をもって取り組んでいますか（オリンピック・パラリンピ

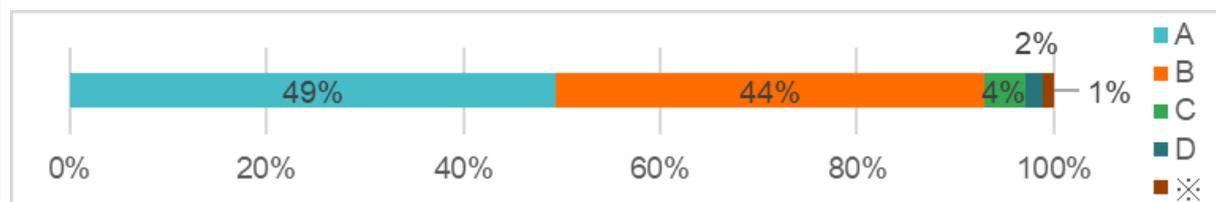
ック教育を含む)」では、A・B評価が88%（昨年度69%）、A評価が19%増加、「よくわからない」が11%（昨年度24%）あり、大きく改善を見た。この質問項目は昨年度は、オリ・パラ教育そのものへの理解・関心度を聞いていたが、今年度はスポーツや体力向上全般への関心度を聞くように変更した。学校では今後もスポーツテストへの取り組みや日常的な体育の充実を含め、スポーツや体力向上に力を注ぎ、オリ・パラ教育についてはそのレガシー、精神を伝え続ける。

「金融教育（コレド阪本）、法教育（弁護士を招いての模擬裁判体験）に進んで取り組んでいるか」では、A・B評価が87%（前年度82%）で、A評価が7%増加、「よくわからない」が11%あった。法教育では、4～6年生に東京弁護士会から講師を招き、民事、刑事の模擬裁判の体験学習を通し、法の理解を深めた。

昨年7月に実施したコレド阪本では、従来の学年をまたがる縦割り班で会社組織を作り、お店を出店して取り組んだ。外部講師を招聘しての金融教室や会計教室、おもてなし教室も実施した。発表当日は、学校公開でその一環を保護者の皆様にご覧いただくこともできた。今後も本校の特色ある教育として、金融教育の学習内容をさらに精選・整理して改善を加え、児童数増加も見据えて実施していきたいと考えている。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

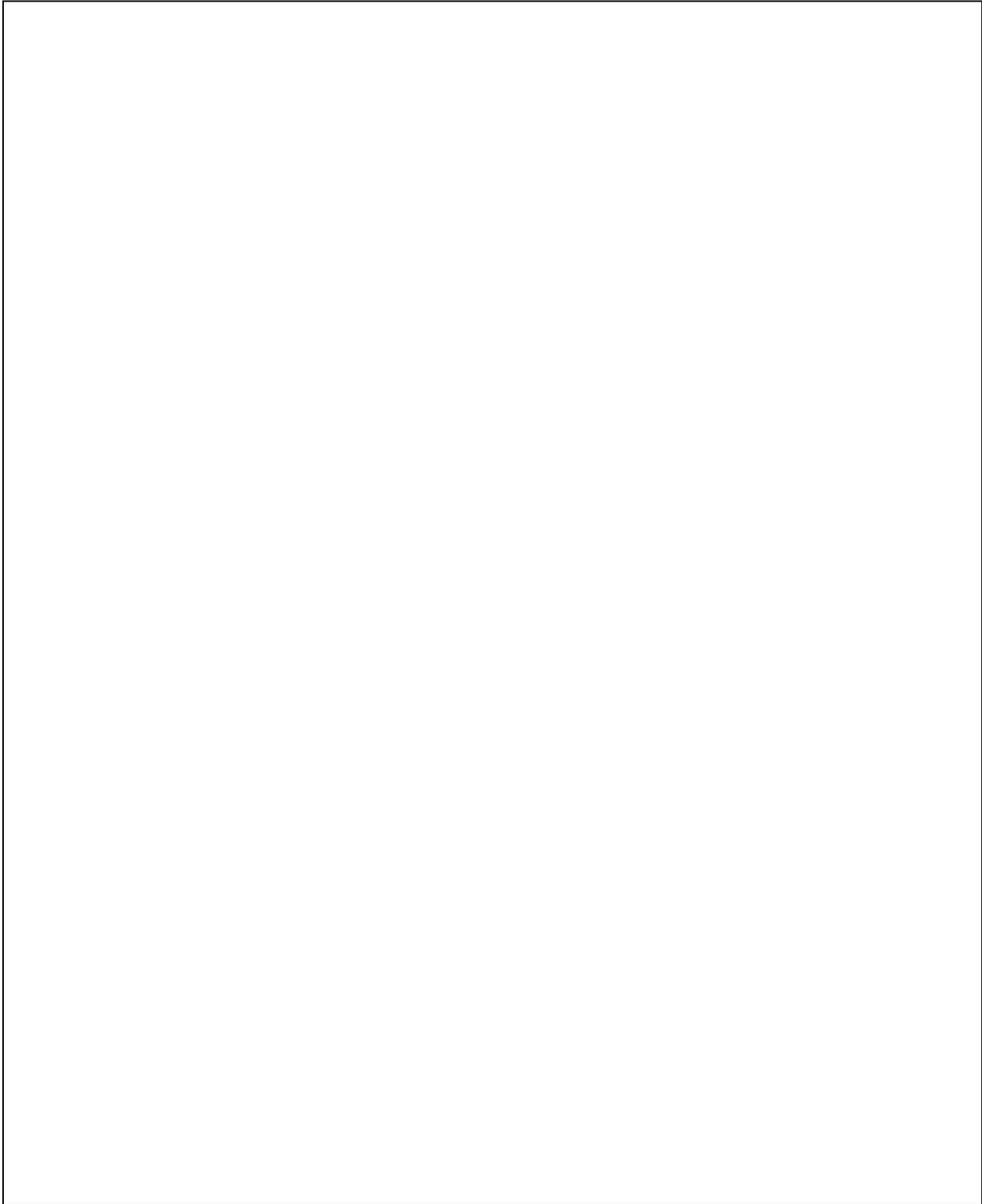
設問：学校は行事や学校公開、学校だより、学年だより、tetoruの配信などを通して児童の学習の様子や生活がわかるようにしている。



昨年度までの課題であった学校からの発信については、A・B評価が93%（前年度91%）でやや改善されている。より積極的に学校の情報を提供すると同時に、今後もよりわかりやすい表記と適切な内容に注意を払い、文章での連絡をしていきたい。また、学校ホームページへの掲載、クラスルームへの掲載等の棲み分けをさらに進め、紙ベースでの配布は減らしていく方向で進めていきたい。

3 今後の改善方策

学習用タブレット等の学習環境の活用については、今後も一人一台の学習用タブレットの学習環境を日常的、効果的に最大限活用し、児童の情報活用能力を引き続き育成していきたい。次年度はデジタルシチズンシップ教育を各教科に取り込んでいく。また、パソコンの検索では得られない貴重で正確な情報収集場所として、図書室の機能の充実を追求し、ICT機器と図書室のバランスのよい効率的な活用を図っていきたい。



* 3月末に各学校・幼稚園のホームページで公表していきます。